

受付番号	建築物名称	場所	建物用途	延べ面積 (㎡)	ランク
R02-3-1	(仮称)芦屋市劔谷プロジェクト	劔谷	老人ホーム, 病院	8,616.99	B +
R03-1	あいさいこども園	朝日ヶ丘町	幼保連携型認定こども園	2,089.66	B +
R03-2	(仮称)ワコーレ芦屋市呉川町	呉川町	共同住宅	2,893.13	B +
R03-3	(仮称)YO-PROJECT新築工事	六麓荘町	一戸建ての住宅	3,053.40	B +
R03-4	(仮称)芦屋市親王塚町計画 新築工事	親王塚町	共同住宅	2,203.03	B +

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)芦屋市剣谷プロジェクト 新築工事	階数	地上6F
建設地	兵庫県芦屋市筋谷9-11.9-12.9-13.9-14.9-15.9-16.9-17.9-18	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第1種	平均居住人員	159 人
地域区分	6地域	年間使用時間	365 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年12月20日
敷地面積	7,037 m ²	作成者	馬場 正文
建築面積	2,777 m ²	確認日	2021年12月20日
延床面積	8,617 m ²	確認者	馬場 正文



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 84% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 84% (46 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 84% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
入所者の住環境を第一と考え、建築計画を行った。	特になし。	
Q1 室内環境 可能な限り外壁面に窓を設けることで、昼光活用が出来るように配慮した。	Q2 サービス性能 建築設備の設置場所をまとめてメンテナンスしやすい建築計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 出来る限り緑地を確保し、敷地内の気温の上昇を抑えられるよう配慮した。
LR1 エネルギー LED照明や高効率の空調機器を採用するなど省エネルギー性に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 可能な限り乾式工法を選定し、将来的な部材の再利用を高めるよう計画を行った。	LR3 敷地外環境 敷地境界線沿いに、構造物ではなく植栽を多く計画することでCO ₂ 削減に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	あいさいこども園 新築工事	階数	地上3F
建設地	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町499番1、499番2、500番2	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用、防火地域指定なし(法22条)	平均居住人員	151人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	学校、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年3月4日
敷地面積	2,996㎡	作成者	仁木元子
建築面積	1,172㎡	確認日	2021年3月30日
延床面積	2,090㎡	確認者	山本茂善



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境: 2.6	機能性: 2.7	生物環境: 2.0
温熱環境: 1.6	耐用性: 3.0	まちなみ: 3.0
光・視環境: 2.8	対応性: 3.1	地域性: 2.5
空気質環境: 3.8		

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮: 5.0	水資源: 3.0	地球温暖化: 3.7
自然エネ: 3.0	非再生材料: 3.2	地域環境: 3.3
設備システ: 4.5	汚染物質: 3.7	周辺環境: 3.2
効率的: 3.0		

3 設計上の配慮事項

総合	その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし。
Q1 室内環境 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。 ビル全体の禁煙が確認されている。	Q2 サービス性能 給水PL(B)、排水VP(B)、給湯PL(B)、Eは不使用。
Q3 室外環境(敷地内) 特になし。	LR1 エネルギー BPI _m =0.59。 [BEI][BEI _m]=0.65。
LR2 資源・マテリアル 「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 内装材と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に、容易にそれぞれを取り外すことができる。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して82%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ワコーレ芦屋市呉川町計画	階数	地上5F、地下0F
建設地	芦屋市呉川町26-1の一部、26-3の一部	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22条地域	平均居住人員	105 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年10月1日
敷地面積	1,366 m ²	作成者	塩田 雅樹
建築面積	762 m ²	確認日	2021年10月1日
延床面積	2,893 m ²	確認者	塩田 雅樹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

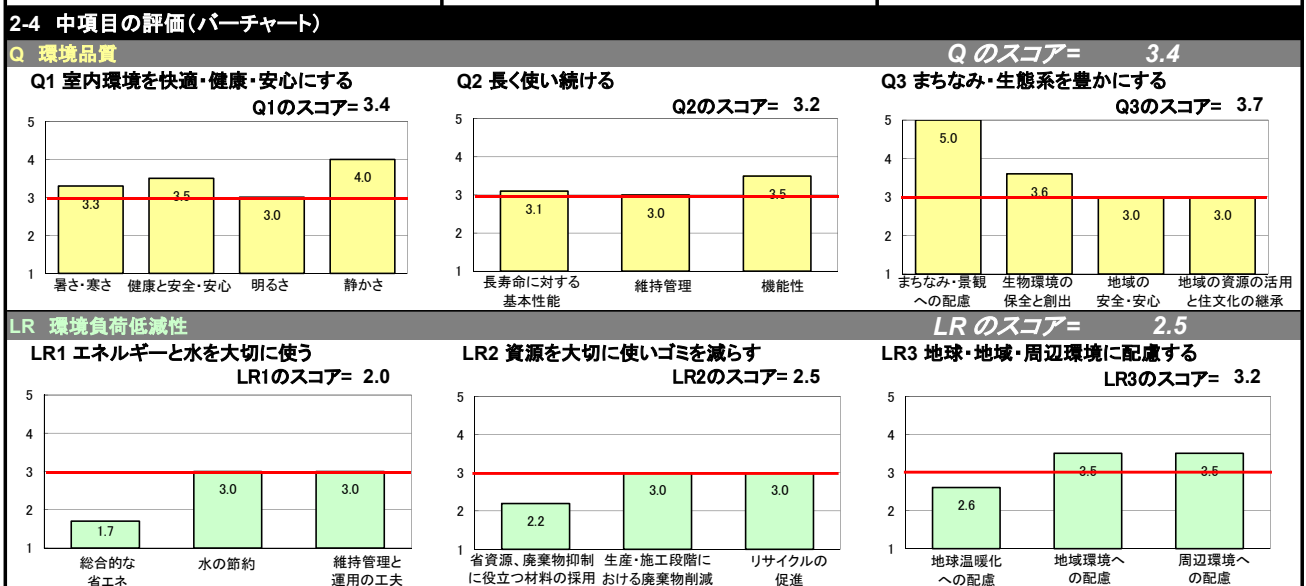
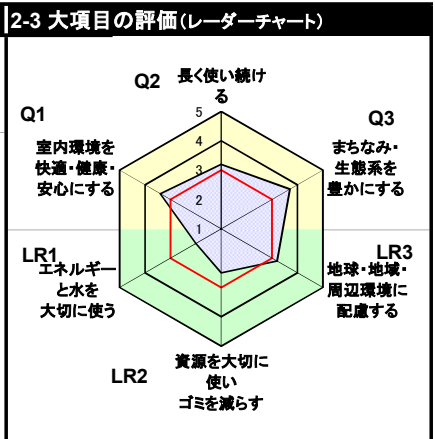
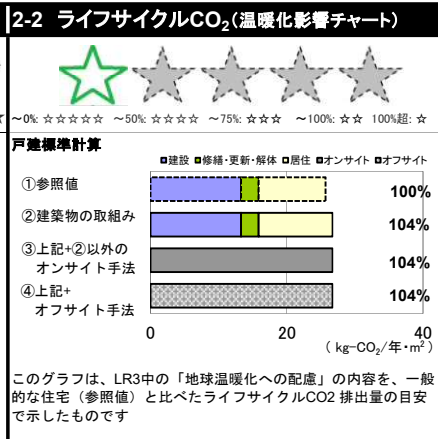
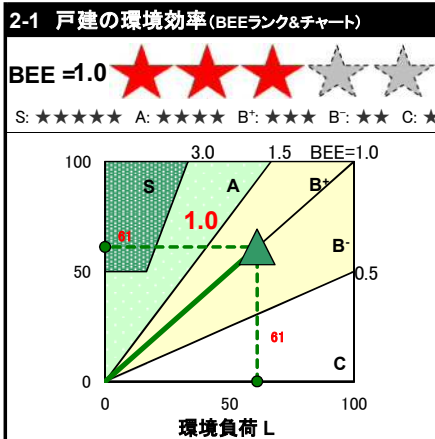
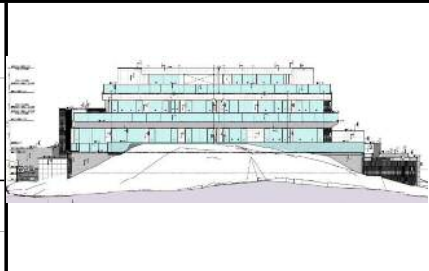
3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネに配慮した。	特になし。	
Q1 室内環境 F☆☆☆の建材使用し化学汚染物質の発生を抑制した。	Q2 サービス性能 維持管理において管理しやすい壁材、床材を使用した。	Q3 室外環境(敷地内) 可能な限り植込みを設け草木を植樹した。
LR1 エネルギー LED照明及び省エネ設備機器を採用した。	LR2 資源・マテリアル 節水に配慮した。	LR3 敷地外環境 地球温暖化への配慮をした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築) 2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC 2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	(仮称)YO-PROJECT		仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	一部確定 仮
竣工年月	2023年4月	予定			
建設地	兵庫県芦屋市六麓荘町72番地1.2				
用途地域	第一種低層住居専用品・防火指定なし・第一種高度地区	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	6 地域				
構造・構法	鉄筋コンクリート造	確定			
階数	地上2階・地下1階				
敷地面積	3,720 m ²	確定	評価の実施日	2021年11月5日	
建築面積	1,109 m ²	確定	作成者	尾高光一	
延床面積	3,053 m ²	確定	確認日	2021年11月12日	
世帯人数	6	確定	確認者	尾高光一	



3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>六甲の麓の自然豊かな住宅地に地域環境を重視して計画敷地を最大限に生かした住宅を計画しました。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>建築材料は告示対象外や規制対象外(F☆☆☆☆)を積極的に採用し、換気については全熱交換付換気設備を計画して室内の空気環境に配慮しました。また、居室の開口部は日本産業規格A4706に規定する開口部でその遮音等級がT-IIに区分されたものを計画して居室の「静かさ」を確保しました。</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>構造は鉄筋コンクリート造であり火災に十分耐える構造としました。</p>
<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>周辺のまちなみや景観に対して配慮し、敷地内の緑化を十分に確保しました。また、既存樹木を可能な限り残して野鳥等が隠れたり営巣したりできる空間の確保に取り組みました。</p>	<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>特になし。</p>
<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>特になし。</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>可能な限り既存の自然環境、自然資源の保存について配慮しました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)芦屋市親王塚町計画 新築工	階数	地上4F
建設地	芦屋市親王塚町57,57-1,60,60-1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種	平均居住人員	102 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年3月4日
敷地面積	1,283 m ²	作成者	D&D建築設計事務所 岡本正仁
建築面積	691 m ²	確認日	
延床面積	2,203 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	断熱等性能等級で等級4や、開口部遮音性能T-2以上の取得など行い、付加価値を設けた。	その他 特に無し。
Q1 室内環境	開口部遮音性能T-2を取得し、室内環境向上に努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 特に無し。
Q2 サービス性能	CAT5Eを採用し、Gbitクラスのブロードバンドの利用可能な環境に配慮した。	
LR1 エネルギー	断熱等性能等級で等級4を取得予定であり、高い断熱性能のある建築材を採用し建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った。
	LR2 資源・マテリアル 特に無し。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される